

ミャンマー国カヤ州における森林農法、 有機農法によるコーヒー栽培と森林保全 ～持続可能なコミュニティの構築

〒135-0001
東京都江東区毛利2-2-8 誠和ビル
電話:03-3634-7809
E-mail:order@wakachiai.com
http://www.wakachiai.com/



ひろげる助成

3年目

実践



コーヒー豆の収穫の様子

森林農法や有機農法を
習得した農民

6人

コーヒーの収穫量

500kg

今年度計画の達成度

25%

活動の全体目標に対する達成度

63%

苦労した点と工夫した点



■ 苦労した点

●事業地が山岳地帯でアクセスしづらいこともあり、現地農家との意志の疎通に苦労した。●周辺の村では焼畑への依存が根強く、有機農法への理解が得られない農民もいた。

■ 工夫した点

事業の対象者が支援に依存せず自立できるよう、有機農法の研修を実施する際は日本人の専門家の派遣はせず、日本で農業研修を受けた現地の専門家に依頼した。

課題

事業地のカヤ州では、政府の貧困対策が行き届いておらず、農業従事者の半数以上が貧困に陥っているといわれている。また、焼畑による森林破壊と地力の低下が進んでいる。

目標

森林農法や有機農法でコーヒーを栽培することにより、焼畑への依存を断ち、森林保全と人々の生活が調和した持続可能なコミュニティを構築する。

活動内容と成果

【有機農法研修】：有機農法の専門家を日本から派遣し、各村で講習会を開いた。

【実践研修】：コーヒーの種や苗を配り、実際に有機農法や森林農法による栽培を行った。コーヒー栽培の専門家を3回派遣し、指導を行った。2村で約1万本の苗を植え、ヤイブラ村では今年度初めて収穫をすることができた。ドービャク村では500kgを収穫し、当会の他にも日本の企業に販売することができた。

【組合設立】：本年度は6名が新たに加わり、合計で30名になった。組合員に役割を与え、組織の強化を行った。

全助成期間の活動を振り返って

事業開始時、ドービャク村ではコーヒーはあったものの栽培方法の知識はなく、ヤイブラ村にいたってはコーヒーの苗もないゼロからのスタートだった。3年間の事業の中で、森林農法や有機農法によるコーヒー栽培を実践し、3年目には、ヤイブラ村では初めての収穫ができ、ドービャク村では過去最高の500kgを収穫することができた。一方で、近隣ではいまだ有機農法の理解が得られず、焼畑を続ける農民もいるという課題も残った。



初めて脱穀機を使っている様子

今後の展望

コーヒーの木は順調に成長しており、今後の収穫高は年々増えていくことが見込まれている。今後は、当会でも日本への輸入販売を行っていくとともに、日本の企業や現地企業への販売ができるよう、サポートを行っていく。また、現時点では組合員は30名だが、コーヒー栽培に関心を持つ近隣住民も多く、コーヒー栽培の担い手は増えていくと思われる。現金収入による生活改善と焼畑の断絶による森林保全を実現していく。



脱穀後のコーヒー豆の乾燥の様子